

## 末梢血管内治療における吸引デバイス吸引圧の比較検討

森永 愛菜<sup>1</sup>、中曾根 由季<sup>1</sup>、滝村 英幸<sup>2</sup>、中野 雅嗣<sup>2</sup>

<sup>1</sup>南東北グループ 医療財団法人 健貢会 総合東京病院、<sup>2</sup>南東北グループ 医療財団法人 健貢会 総合東京病院

末梢血管の病変の多くは血栓である。2023年に末梢血管用血栓吸引デバイス「INDIGO システム」が発売され、現在日本の臨床現場で使用できる血栓吸引器は手動吸引から自動吸引まで多岐にわたる。様々な吸引方法があるが実際の吸引力を提示した資料はない。そこで今回、当院で実際に使用している吸引デバイスの吸引圧を測定し比較検討した。測定対象は吸引シリンジ、TVAC 吸引器 (NIPPRO)、Indigo system (ASAHI INTECC) 及びアウトレットの吸引器を用いた。吸引力の測定には真腔圧力計を行い、各吸引器と接続し吸引圧の測定を行った。計測結果は、アウトレットの吸引器 : -56kPa、吸引シリンジ 30ml : -10kPa、60ml : -20kPa、90ml : -28kPa、120ml : -33kPa、50ml 2本 : -58kPa、TVAC 吸引器 (装置本体 Max 吸引圧-80.3kPa) : -80kPa、Indigo system : -90kPa であった。また、吸引シリンジ 30ml で連続的に陰圧し続けた場合、-80kPa の吸引圧をかけることが可能であった。最も陰圧がかかるのは Indigo system であった。しかし TVAC 吸引器との差はわずか-10kPa であり、Indigo system などの自動吸引器がなくても、30ml の吸引シリンジで連続的に何度も陰圧し続けると、Indigo system と同じ吸引圧をかけることが可能である。